

プロジェクト名：ジンバブエ国ムニャティ川下流域農業開発計画調査（M/P）

（調査期間：1994年12月～12ヵ月、担当業務：農業及び土壌）

調査背景

ジンバブエ国政府は第2次5ヶ年計画（1991～1995年）の中で農業部門では、国民に対する十分な食糧供給が可能な農業生産の確保を最重点課題としており、農業生産に対する主な制約要因を水不足及び旱魃としている。また、従来は主として白人が所有経営する大規模商業農地を対象にした灌漑用水資源開発が積極的に行われてきたが、個別農家の大半を占める共同体地区、入植地区や小規模商業農場に対する助成は少なく、両者の間の生産性や生活水準には大きな格差がある。このような背景のもとに土地・農業・水資源省は、西マジョナランド州及びミッドランド州両州境を流れるムニャティ川の下流域で、かつ共同体地区や入植地区が主たる受益者となるような地区を対象として、灌漑用水資源の確保を目的としたクドウ・ダム建設のためのマスタープラン調査を要請した。

調査概要

本調査は地域開発、水利用、営農、農村社会、土壌・土地利用、環境等8人の専門家で構成された調査団によって調査が行われ、対象地域に係る開発計画のマスタープランとしてダム建設によるもの及びそれに代わる複数の代替案の検討を行った。本調査では各専門分野の調査及び解析の他に、既存灌漑施設の実態調査、土壌調査、水質調査、農家経済調査等が行われた。その結果、ダムによる灌漑を中心とした農業開発計画を始めとする3つの開発計画が策定された。

担当事項

- 対象地区における土壌及び現況土地利用に関する資料収集及び解析。
- 衛星画像（SPOT）解析による現況土地利用及び農業開発可能性調査。
- 土地資源に関する農業開発阻害要因の特定。
- 土地利用に関わる農業開発基本計画の策定。

